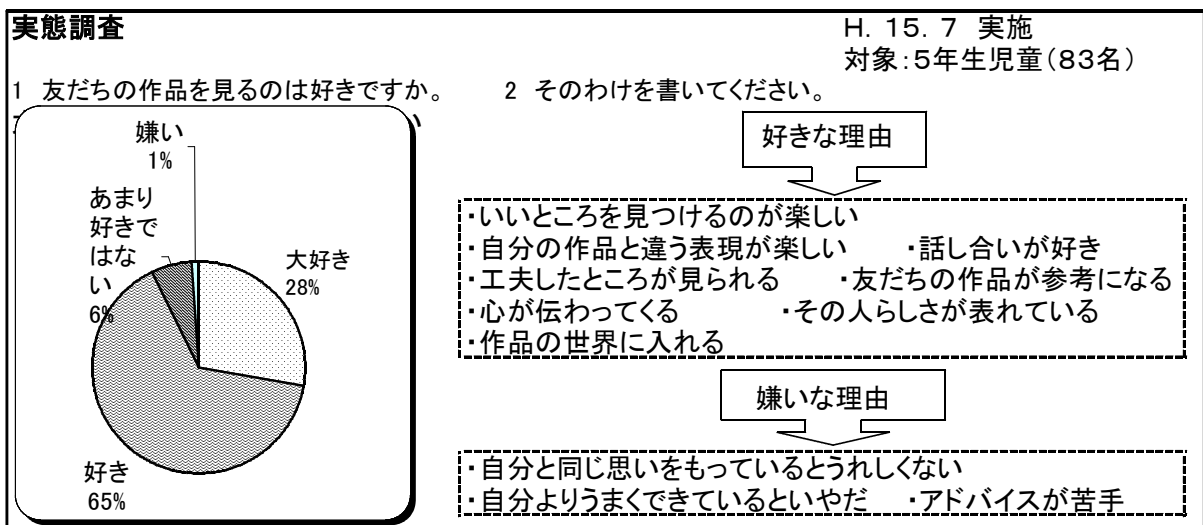


図画工作科学習指導案

東広島市小谷小学校 中邑 恵子
高橋 修
名越 里奈

- 1 学 年 第5学年 83名
2 場 所 5年教室 オープンスペース
3 題材名 グランドオープン！ ザ・KODANIーミュージアム (鑑)
4 題材について

- 本題材は、作品を鑑賞することにより、多様な表現方法や技法、作品に対する意図を感じ取り、その人の考え方、生き方にも直接かかわっていかうとする内容である。そのことは、児童の感覚や感性を高めるとともに、それらの作品や表現にあこがれ、それらを大切にしようとする態度を育てることにつながっていくと考える。そのねらいをより達成させるため、地域や広島大学と連携し、実際の制作過程における画材や用具、技法を含むホンモノの迫力を児童に体全体で感じさせていく。そして、その感動を原動力として、以後の児童の表現活動につなげていきたい。つまり、こうした学習は、児童の表現だけでなく、見方や感じ方の枠も大きく広げ、夢やあこがれをふくらませ、今後の意欲的な創造活動につながると考え、本題材を設定した。
- 本学年のほとんどの児童は、絵を描いたり工作をしたりする活動を好み、テーマに沿って丁寧に学習を進めることができるが、画一的な表現方法になりやすいという傾向がみられる。この実態は、これまで各題材の学習活動の中で、児童作品を自己評価・相互評価しながらの鑑賞場面を設定し、主にそれぞれの作品の紹介や感想の交流をしてきたものの、多様な表現に触れたり視点をもって作品を見たりなど鑑賞活動を通しての刺激が少なかったためではないかと考えられる。つまり、ほとんどの児童は、作品に対しイメージを感覚的につかむことはできるが、作者の思いや意図を感じ取ったり、これからの自分の創造活動に生かそうと考えたりする児童は少ないといえる。また、鑑賞活動を好まない理由の一つである「同じ思いをもっているとうれしくない」などから、児童の独創性の芽生えや価値観の広がりへの必要性を感じ取ることもできる。



○ 指導にあたっては、まず、児童の心をゆさぶるような作品や制作者との出会いを大切にしていきたい。そのために、地域や広島大学と連携をとり、それぞれのテーマで創作されている作品の意図や制作過程を教わったり、実際に使われている用具や材料などに触れたりする時間を設定する。有名な芸術作品とよばれる作品を鑑賞教材として選択し、学習を進めていくことも児童の表現活動を広げていくことにおいてはたいへん有意義であるが、制作者の思いを実際に聞いたり創作活動を見たりすることは不可能である。しかし、本題材では、手触り、におい、質感、色彩、大きさ、重さなど全身で感じることができる。また、制作者の思いと児童の思いをその場で交流し、深めることができるなどが最大の利点として挙げられる。

また、制作者の思い、技法、色など視点をもたせた鑑賞学習を展開していくために、あらかじめ作品を展示しておき、ワークシートの活用などにより、作品のテーマや制作者の意図などについて児童のイメージを膨らませておきたい。

こうした鑑賞による刺激は、今後の児童自身の創造活動に生きていくものとする。

題材全体を通して、かかわりという視点から次のように考える。

自分とのかかわり	○作品鑑賞を通して、自分の創造活動を振り返るとともに、これからの自分自身の創造活動に生かしていくことができる。
人とかかわり	○鑑賞作品の制作者の意図や思いを知ったり、感想を交流したりしながら、表現のよさや工夫に気づくことができる。
地域・モノとのかかわり	○作品に直接触れたり、感じたりすることにより、多様な表現方法に気づき、自ら創りだしていこうとする意欲を高める。

5 題材の目標

- 鑑賞作品の表現方法や技法など自分なりの視点をもって見たり、制作者の意図を感じ取ったりしようとする。
- 鑑賞作品を見たり、意見交流したりすることを通して、友達の感じ方に共感することができる。

6 題材の評価規準

B 鑑 賞	エ 造形への関心 ・意欲・態度	①作品に関心をもち、その美しさやおもしろさなどを味わおうとしている。 ②作品のテーマや制作者の思い、生き方に関心をもちている。 ③自分の考えを大切にしたり、友達の感じ方に共感したりしようとする。
	オ 鑑賞の能力	①様々な感覚を通して、制作者の思いや意図、表現方法の特徴を知り、見方や感じ方を深める。 ②自分なりに感じたことや考えたことなどをもとに作品紹介をする。

7 指導計画（全3時間）

次	学 習 活 動 （時数）	評価規準◎○ 評価方法（ ）
1 次	『KODAN Iーミュージアム』を 体感しよう！	
	○作品を自由に見たり，触れたりしながら，それぞれ感想や疑問などをもつ。	◎エ① 作品に関心をもち，体全体の感覚で作品を味わおうとしている。 (行動・ワークシート)
	(2) ○選択した作品の題名や制作者の意図を予想し，自分なりの課題をもつ。	
	○作品についての感想などお互いに意見交流をする。	○エ③ 自分の考えを大切にしたり，友達の方の感じ方に共感したりする。(発言)
	○制作者から，作品に対する意図や作品名などについての説明を聞いたり，自分の考えを述べたりしながら作品を味わう。	◎エ② 作品のテーマや制作者の思い，生き方に関心をもっている。 (行動・発言)
	○選択した作品の紹介カードを書く。 (本時 2/2)	◎オ① 様々な感覚を通して，制作者の意図，表現方法の特徴をとらえることができる。 (ワークシート)
2 次	グランドオープン！ザ・KODAN Iーミュージアム	
	(1) ○ミュージアムの開館準備をする。 ・案内状 ・展示の方法 ・作品紹介カード など	◎オ② 作品の意図や自分の思いを相手に伝える。 (行動)
	○作品について，他学年の児童や招待した方に説明する。	

8 本時の目標

- 選んだ作品の制作者とのかかわりを通して、表現の意図や表現方法の工夫、作品の美しさやよさなどを味わうことができる。

9 準備物

- (児童) プロジェクトZカード (図工ファイル)
- (教師) 作品の展示 (絵画 彫刻 工芸 デザイン)
- 鑑賞ワークシート 作品紹介カード

10 学習過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
1 前時に選択した作品について、選んだ理由や作品のテーマなどについて意見を交流する。	○美術館の雰囲気が出るよう、作品展示やコーナー紹介などの工夫をしておく。 ○前時の学習を振り返るために、鑑賞カードを活用する。	○エ③ 自分の考えを大切にしたり友達を感じ方に共感したりしようとする。 (発言)
2 学習のめあてをつかむ。 作品を 味わおう！ 制作者とふれあおう！	○児童の興味・関心が高まるよう、制作者には、服装・用具・材料など制作活動に必要な物を持参してもらう。	◎エ② 作品のテーマや意図、生き方に関心をもって いる。 (行動)
3 作品に対する自分の感想や考えを話したり、制作過程や意図に対しての質問したりして、制作者と交流する。	○かかわりが深くなるよう、選択したコーナーで少人数で交流を進める。 ○児童が体感できるよう、実際に使用していく用具や材料など具体物を提示しながら話していただく。	◎オ① 制作者の意図や表現方法の特徴をとらえることができる。 (行動・ワークシート)
4 作品の特徴や制作者の意図などをふまえ、作品の紹介文を書く。	○自分の思いをもとに作品の紹介カードを書き、学習のまとめとする。	○オ② 作品について、感じたことなどを紹介することができる。 (紹介カード)
5 次時の学習を知る。	○作品について、他コーナーの友達や他学年に解説していくことを知らせる。	